

され、どのような背景で廃棄されたのか、という問題は残ろう。

エノ田遺跡群では、独立性丘陵の中腹から奈良時代の掘立柱建物群、東方の山裾からは平安時代的大型掘立柱建物・井戸、さらに尾根上からは須恵器蓋杯を火葬骨容器とした奈良時代の墳墓などがみつかっている。また、約1km以内の距離に、木製祭祀具の出土地が二カ所、大字としての「三宅」＝ミヤケの地名、古代寺院「葉琳寺」推定地などが知られている。

このように、遺跡周辺は律令期における但馬国出石郡穴見郷の行政的中心地であり、今回の調査地は、実態は不明確ではあるがそれに伴う祓所（はらえと）である可能性を考えておきたい。

なお、木簡の积読・撮影などにあたり、館野和己・古尾谷知浩・東野治之・田中忠雄・平川南・佃幹雄の各氏にご尽力いただいた。

9 関係文献

豊岡市出土文化財管理センター『とよおか発掘情報』一（一九九六年）

（潮崎 誠）

『長野県屋代遺跡群出土木簡』の刊行

長野県更埴市屋代遺跡群は本号に報告を掲載したように、干支による年紀を有する木簡や国符・郡符木簡など、地方行政に関わる総計一二六点の木簡が出土した遺跡であるが、この木簡に関する報告書が刊行された。

主な内容として、遺跡の概観、木簡出土の遺構と伴出遺物について解説した後、木簡の积文と解説を赤外線テレビカメラの画像と合わせて掲載するとともに、木簡の製作技法と廃棄方法の検討や木簡の内容に関する考察を収載している。

（財）長野県埋蔵文化財センター編集・発行、一九九六年三月刊

A4判、二四〇頁、付図五枚

頒価三五〇〇円

送料一部五〇〇円、二部六〇〇円、三部以上実費

問い合わせ

（財）長野県埋蔵文化財センター上田調査事務所 図書資料普及会

〒三八六 長野県上田市下塩尻九三六―三

TEL 〇二六八―二六―九三九四

FAX 〇二六八―二六―九一九四